

退任

福留

保



任期:平成30年4月1日
~令和3年3月31日

副市長退任にあたり一言御礼を申し上げます。

私は、平成30年4月に就任以来、3年間でございましたが、塗木市長の補佐役として誠心誠意業務に取り組んできたつもりです。しかしながら、市政発展のためどれだけ貢献できたかは疑問でございます。

その間、いろいろな出来事がありました。穎娃地域3中学校の統合による新生穎娃中学校の開校、児童数減少による田代小学校、手叢小学校、松原小学校の閉校や、市内全域への光プロードバンドの整備開始、かごしま国体リハーサル大会、戦艦ミズーリ記念館との姉妹館提携リモート締結式など枚挙に暇がありません。

なかでも特筆すべきは新型コロナウイルス感染症のまん延であります。最近では本市、ならびに鹿児島県では小児状態が続いています。全国的に見てみますと収束の兆しは見えていません。このコロ

ナ禍において、令和2年度はあらゆる行事の中止や会合などにおいても書面による決議などを余儀なくされました。

本市においては、コロナ感染症予防対策や疲弊した地域経済立て直しのための施策をあらゆる観点から講じてまいりましたが、今後ともウイズコロナ、アフターコロナを見据え、新しい生活様式の中での取り組みを強化していかなければなりません。ワクチン接種も一部で始まりましたが、市民の皆さまへの接種については今しばらくの感があります。コロナ対策への皆さまのさらなるご協力をお願いいたします。

現在、本市ではコロナ対策のほかにも茶臼の低迷、サツマイモ基腐病の大発生、市役所新庁舎の建設問題など課題山積でございます。しかしながら、市民の皆さまには合併新市基本計画の基本理念を踏まえた、第2次総合計画の「人と自然が共生する 活気あふれる住みよいまち 南九州市」の将来都市像を目指して市政運営を行っている塗木市長と一丸となつたまちづくりの実現のために、ご協力をお願い申し上げます。結びに、南九州市のさらなる発展と市民の皆さまのご健勝をご祈念申し上げます、御礼のあいさつといたします。ありがとうございました。

南九州市副市長 退任・就任のごあいさつ

就任

江平

恒博



令和3年4月1日 就任

このたび、関係皆さま方のご理解のもと、副市長の任を拝命いたしました。身に余る光栄であり、また、その職責の大きさ、重さにも身の引き締まる思いでございます。

もとより浅学非才で微力ではございますが、南九州市発展のため38年間の行政経験を生かし誠心誠意全力で努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年からの世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の感染拡大が市民生活や地域経済に大きな影響を与えています。本市におきましても農業や畜産業、観光業や商業などあらゆる面で打撃を受けており、ウイズコロナ、アフターコロナを見据えスピード感を持って社会経済活動を進める必要があります。

また、一日でも早く市民の皆さまがマスクの要らない安心して生活できる日を取り戻せるよう、コ

ロナワクチン接種はじめ感染拡大の防止に全力で取り組みなければなりません。国や県の動向を注視し、しっかりと対応を図って参りたいと考えております。

南九州市は平成19年の合併から14年目となり、第2次南九州市総合計画に「人と自然が共生する 活気あふれる 住みよいまち 南九州市」を将来都市像として掲げ、それぞれの所管で各種施策を実施しておりますが、歯止めのかない人口減少による少子高齢化や低迷する産業、緊迫した財政状況を含め十分に対応できていない状況下にあります。

これらの検証を行い、市民の皆さま方のご意見を賜りながら、SDGsによる持続可能なまちづくりに取り組み、また、新庁舎建設の推進、デジタル社会の実現に取り組むなど新しい発想・技術を市政運営に積極的に取り入れ、より質の高い行政を進めることが大事であると考えております。

これから「市民の声が羅針盤」を市政運営の基本とする塗木市長の補佐役として、豊かな自然や秀でた歴史、文化を有した南九州市をより一層前進させるよう職務に取り組んで参りますので、市民の皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。